

6年ほど前のことになる。毎年10月に開催される福島県中学校教育研究協議会が会津地区で行われることになった。国語の授業者は、3学年で3名だった。授業者は、前年度のうちに決まっていた。詳しい事のいきさつは忘れてしまったが、授業者から相談を受け、指導案作成の段階から関わることになった。

3人のうち2人は、同じ学校だった。その学校が会場校だった。まずは、2人の授業者と、いろいろな話をした。今までどんな授業をしてきたのか。今回は、どんな授業をしたいのか。授業者としての思いや願い、考えを聞いた。これが重要である。思いや願いがベースとなる。これがないと苦しい。

2人の話を聞いて、私の方から、ある提案をした。県内各地から会津の会場校に来る参観者にとって勉強になること、2人の授業者にとって新しいこと、今、求められる教育的な要請などの視点から考えた。私が出した結論は、「知識構成型ジグソー学習」だった。これをやってみませんかという提案をした。

2人は困惑していた。答えがすぐに返ってくるはずもなかった。ジグソーなど、知らないし、やったことがないのだから、答えようがない。ジグソー学習について説明をした。その原理や重要なポイントを話した。私の実践例も紹介した。ちょうど、アクティブ・ラーニングという言葉が、教育界を飛び交っていた。2人は、半信半疑のようで自信がなさそうだった。だが、結論は、「やってみます」ということだった。

ここからが、すごかった。2人には、行動力があつた。授業づくりへの熱量がものすごかった。ジグソー学習に関する書籍を購入して読んだ。何度も質問のメールが届いた。県教育センターの国語講座に参加した。県大会の授業をするという責任感、新たなことに取り組むチャレンジ精神やワクワク感が、そうさせたのかもしれない。

10月の授業へ向けて、1学期のうちからジグソー学習への取組が始まった。やってみたところ、ここがうまくいきませんでしたという報告が届く。それを聞き、今度は、こうやってみましょうかとなる。こんなやりとりを続けながら、10月の当日を迎えた。ここに至るまでに、2人の授業者の国語の授業は、すでに変っていた。大変だったことだろうと思う。なかなか真似のできることはない。1人ではなく2人だったのもよかったのかもしれない。充実した研修の日々だった。熱く燃えた期間だった。

生徒は、幸せだったことだろう。こんな先生の授業を受けることができたのだから。熱く授業に燃える先生の授業は違うはずである。縁あって、数年後に、あのときの授業者の方に再会することができた。その方は、授業研究会の場で、「あのときは大変でしたが、今でも私の財産になっています」と言ってくれました。うれしかった。2人のようにはいかないかもしれないが、教員として教壇に立っている以上、熱く燃えるときは必要なのではなからうか。熱量を最大限にする経験があった方がいいように思う。それが、その後の教員人生を支えていくことになる。

あのときの私は、お世話になった会津に恩返しをしたいという気持ちと、2人の熱量に応えたいという思いだったのだろう。学習指導案やワークシートなど、2人の先生とのやりとりは、私のパソコンにデータとして残っている。だが、一番残っているのは、人との縁である。人の思いである。